

中城村南上自治会

南上原組踊保存会

創作組踊

糸蒲村
いと かまむら

村踊り縁起
むら うどうい えん ぎ

「能羽の縁」

—ぬふあぬえにし—

作・演出・指導：東江裕吉・新垣悟・比嘉侑子

2023年11月12日  開演：17：10(予定)

吉の浦会館 多目的ホール

入場無料

(〒901-2407 沖縄県中城村安里 187-1)

主催：第11回中城村文化まつり実行委員会

後援：中城村文化協会、中城村、中城村教育委員会、中城村自治会長会、中城村老人クラブ連合会
中城村南上原組踊保存会、他

お問い合わせ：南上原組踊保存会 ☎080-2710-7582

中城文化まつり実行委員会(中城村教育委員会生涯学習課内) ☎098-895-2158

能羽の縁

—ぬふあぬえにし—

あらすじ

いとかまむら みなみうえはる

作・演出・指導：東江裕吉、新垣悟、比嘉侑子
内容：小5以上の組踊塾生による新作の組踊公演
日時：2023 11月12日（日）開演：17時10分（予定）
場所：沖縄県中城村吉の浦会館 多目的ホール

この組踊は今から300年前の糸蒲村（南上原）が舞台。嵐で首里グスクと中城グスクを結ぶ幹線道「ハンタ道」が崩壊した。それを聞きつけた首里王府は村人や各間切りの人々の協力を得てその復旧工事（普請）に着手した。村娘たちは働き者で容姿端麗な二人の兄弟にあこがれた。二人の兄弟は士族の生まれで王府の踊奉行だった父親を亡くし、母とともに首里からこの村に田舎下りしてきたが、村人との交流もなく孤立していた。

月日は流れ、ハンタ道復旧事業も終了し、村人たちは芸能に優れた二人の兄弟から踊を教えてもらい、普請奉行を招き芸能で歓待することとなった。祝宴では二人が指導した踊の演目が披露され普請奉行は大変に喜んだ。また、二人の兄弟も踊りを通して村人たちとの絆が深まったことを喜んだ。二人の兄弟が村人たちと能羽（芸能）を通して縁（えにし）を結び、これを機に糸蒲村が栄えていくとともに、能羽の手並みを継承し、守っていけば村の宝となることでしょう。

出演者

解説

井上玲央祢（中3） 新屋敷幸葵（中2）

配役

普天間 金松 末吉元気（高2）
普天間亀千代 新城終羽（高1）
母 田島吟（賛助出演）
ウサ小 比嘉彩花（高2）
ナバー 渡名喜苺英（中1）
カマド 比嘉心愛（中1）
チラー 桃原さくら（高1）
村頭 新里拓海（組踊塾生）
普請奉行（仲座大主） 宮城汰成（高2）
供一 井上玲央祢（中3）
供二 新屋敷幸葵（中2）
きょうきよこ持 翁長舞子（中3）
仲座百花（中3）
石川真帆（中2）

村人（踊り）

「港原節」 志良堂里紅（中2）
渡名喜苺英（中1）
比嘉心愛（中1）
志良堂心糸（小5）
渡名喜庸太（小5）
「坂原口説」 翁長舞子（中3） 仲座百花（中3）
石川真帆（中2）

「そんばれ節・亀甲節」 末吉元気（高2） 新城終羽（高1）

「口説囃子」 長崎さくら（高2） 比嘉彩花（高2）
志良堂結（高2） 宮城柚羽（中3）
宮城琴羽（中3） 翁長舞子（中3）
桃原さくら（高1） 末吉元気（高2）
新城終羽（高1）

地謡

歌・三線 新垣俊道、謝敷アンヘル、喜納吏一
箏 新垣和代子
笛 亀井美音
太鼓 宮城昭博